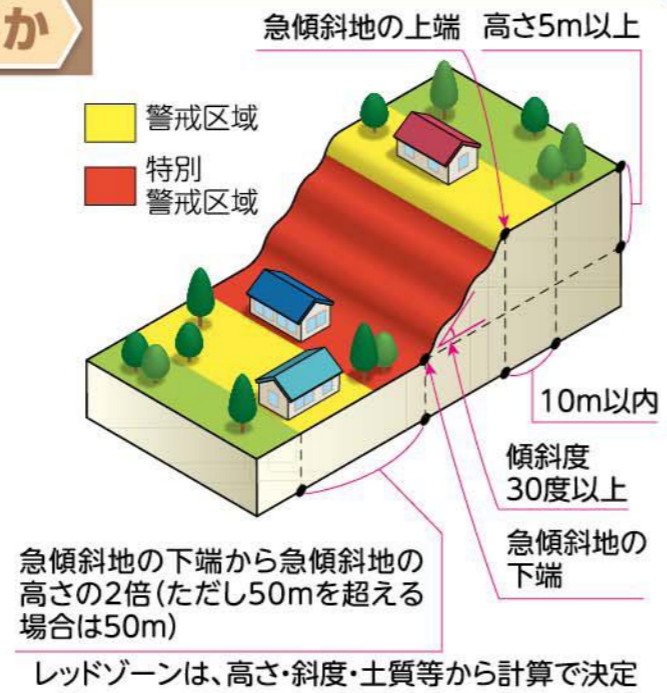


土砂災害とはどのような災害か

土砂災害には、土石流、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)、地すべりの3つの現象があります。荒川区ではこれらのうち、台風や大雨、梅雨の時期の長時間の雨などによって、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)が発生するおそれがあります。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)とは、地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。



土砂災害警戒区域 (通称:イエローゾーン)

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

- ◆がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)の指定範囲
- 傾斜度が30度以上で高さが5メートル以上の区域
 - 急傾斜地の下端から水平距離が10メートル以内の区域
 - 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50メートルを超える場合は50メートル)以内の区域

土砂災害特別警戒区域 (通称:レッドゾーン)

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)の内側において、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

注意報・警報の種類

気象情報	発表の基準
大雨注意報	大雨により、災害が起こるおそれがあるとき 【発表の基準】1時間雨量30mm以上
大雨警報(土砂災害)	大雨によって重大な災害が起こるおそれがあるとき 【発表の基準】1時間雨量50mm以上
土砂災害警戒情報	大雨による土砂災害発生の危険度が更に高まった場合
記録的短時間大雨情報	1時間雨量100mmの猛烈な雨を観測したとき
大雨特別警報(土砂災害)	数十年に一度の大雨が予想されるとき 重大な災害が発生する可能性が高まっているとき

避難情報の種類・発令の目安

緊急の度合い	気象情報	区からの避難情報	とるべき行動	
高	大雨注意報		●テレビやラジオ等で気象情報を収集する。	
	大雨警報(土砂災害)	大雨に関する注意喚起	●高齢者や障がい者の方等は、いつでも避難できるよう準備する。 ●不安な方は自主的に避難を開始する。	
		避難準備・高齢者等避難開始	●高齢者や障がい者の方等は、避難を開始する。 ●他の方も、いつでも避難できるよう準備する。	
	大雨特別警報(土砂災害)	土砂災害警戒情報	避難	●災害が発生する危険性が高いため、速やかに避難を開始する。
		記録的短時間大雨情報		●既に災害が発生していてもおかしくない極めて危険な状況であるため、ただちに避難する。 ※がけに割れ目が入る、小石がぱらぱらと落ちてくる等、前兆現象がある場合、または発生した場合は、ただちに土砂災害(特別)警戒区域外へ退避する。
		避難指示(緊急)		

避難時の注意点

避難情報などが発令された場合は、以下の点などに注意して速やかに避難しましょう。

- ◆最新の情報を収集
テレビやインターネットで最新の気象情報や避難情報などを確認しましょう。
- ◆早めの避難
雨の降り方や、周囲の状況に注意し、危険を感じたら早めに避難しましょう。
- ◆動きやすい服装、2人以上での避難
避難の際には、動きやすい服装で、できるだけ一人での行動は避け、近所の方にも声をかけましょう。

非常持ち出し品の準備

- いざという時に備えて、以下を参考に日頃から非常持ち出し品を準備しておきましょう。
- 貴重品**
現金、預金通帳、身分証明書など
 - 水・食料**
飲料水、非常食、紙皿、紙コップなど
 - 衣類**
下着、靴下、雨具、運動靴など
 - 応急医療**
救急セット、常備薬など
 - 日用品**
タオル、ティッシュ、マスクなど
 - その他**
ラジオ、懐中電灯、充電器など

避難行動確認表

ご自宅や職場等における土砂災害の危険性や近くの避難場所等について、以下の点をあらかじめ確認しておきましょう。

- ご自宅や職場等における土砂災害の危険性について、地図を見て確認しましょう。
- 緊急的に避難する場所を決めておきましょう。
- ご自宅や職場等からの避難経路を地図上に記入しましょう。
- 家族や親族等の連絡先を記入しておきましょう。

名前	電話番号など	職場・学校など